

令和元年度 日本大学高等学校・中学校 自己評価票

【本校の目指す学校像】

本学の「日本大学教育憲章」に定める「日本大学マインド」を理解し、教育理念である「自主創造」の3つの構成要素及びその能力である「自ら学ぶ」、「自ら考える」、「自ら道をひらく」を体現させるため、校訓「情熱と真心」、教育目標「自覚と責任」を掲げた教育活動を展開して、国内外で活躍し社会に貢献できる人材育成のための基礎作りを目指す。

平成29年度に「Aiming high!」を教育スローガンに掲げた教育のグランドデザインを策定し、それ以後、着実にあらゆる手段を通じて生徒及び教職員などに対し周知徹底を図っており、おおむね浸透している。

「Aiming high!」、「凡事徹底」、「寧静致遠」を“夢の実現のための3つの重要要素”として意識化・習慣化を図ることにより、進路目標の実現を目指すとともに、卒業時には生徒・保護者が「行って良かった」、「行かせて良かった」と満足度を高める教育活動を展開するため、学校としての教育力向上を果たす。

【本校の特長及び課題】

令和2年度に創設90周年を迎える歴史と伝統の中で、文武両道の精神のもと、学習活動や部活動に「情熱と真心」を込めて真摯に取り組む教育活動を展開している。今後の少子高齢化、グローバル化、IT技術の発達といった社会情勢の変化に加え、次期学習指導要領の改訂、高大接続教育改革に関わる新テストの導入といった教育の大改革を迎えるに当たり、教育内容及びシステムを大きく進化させている。

まず、「確かな学力」を身に付けるために、主体的で深い学びの実現を目指したアクティブラーニング型授業を展開しており、その充実のために他校に先駆けて「ICT教育」を推進している。そして、「世界の人と協働する力」を身に付けるために、「グローバル教育」、「英語4技能の充実」を推進するとともに、各種海外研修・留学や海外修学旅行を展開し、異文化理解や多様性理解力を涵養している。さらに、部活動や体験型キャリア教育を通じ、文武両道の精神とともに人間力の向上に努めている。

また、中学校2コース制・高等学校3クラス制というシステム改革を行い、生徒及び保護者の多岐にわたる学校生活や進学希望に応えている。将来的には、中学校2コース制・高等学校3クラス制をどのように接続させるか、中高一貫化も視野に入れた枠組みを検討する。それを次期学習指導要領の改訂時に導入できるよう、カリキュラムマネジメントを組織的かつ体系的に進めていく。

加えて、経営の安定化を図るため、受験生及びその保護者から選ばれる学校となるよう、教育力の強化向上を目指し、様々な新たな特色ある施策の打ち出しを検討する。

令和元年度の取組結果

【概況】

各評価項目における取組目標については、おおむね良好な進捗状況であった。達成目標によっては、令和元年度内に全てを達成できる内容とは限らず、また、達成状況に関しては取組結果や進捗状況を即時的に判定することができない内容もあるが、組織的かつ客観的に指導できるよう、風通しのよい風土を常に意識した校内運営の環境づくりに努めた。

特に、令和元年度から取り入れている校務分掌等の定期的な会議開催については、あらゆる課題を的確に捉え、組織的かつ体系的、また、継続的に課題解決に取り組めるよう、さらには、新規の事業にも積極的に取り組めるよう、関係教職員間の連携強化をもとにしたガバナンス体制の構築に向けた一助につながっている。

また、ICT機器を活用したアクティブラーニング研究授業（学期ごとに全教科実施）は、教員の教育力向上を目指した研鑽・研修の機会と捉え、教育指導に関する技術の向上につながっている。

今後も、本校全体で行う組織的な自己点検・評価、教員個人による自己点検・評価及び生徒による授業評価の結果を有効に活用するとともに学校独自のアンケートを実施し、それをもとに点検・評価の上、PDCAサイクルを構築していくことが肝要であると考えている。

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
「新学習指導要領」や「高大接続改革」施行に向けての取組	「新学習指導要領」に対応したカリキュラムの改定に向け、各教科及び進路指導部等の関係分掌と連携して原案を検討して提示し、カリキュラム検討委員会において協議する。カリキュラムの改定に向けては、「主体的・対話的で深い学び」の視点から検討した。	C
教員の資質及び教授指導技術向上のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休暇期間（夏期・冬期・春期）を利用して、各種研修会への積極的な参加を促し、教科指導力のスキルアップの機会とした。 ・「ICT機器を活用したアクティブラーニング（AL）研究授業」を実施した。教員の研さん・研修の機会とし、教授指導技術の向上に努め、生徒にとって満足度の高い授業づくりに取り組んだ。 <p>また、積極的にICT機器の新たなアプリを利用した教授法に取り組む教員が増えてきた。</p> <p>[アクティブラーニング研究授業]</p> <p>各教科学期に1回（5～6月，11月，2月）実施</p> <p>※11月は5時間目に全教科一斉に実施した。</p> <p>6・7時間目に授業の反省及び意見交換を行うことにより、授業方法の改善などを中心に、担当教員同士での教授法を検証する機会が増えた。</p>	A

学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
いじめ防止のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに教職員・保護者に対して、学校の取組と姿勢を周知する。適宜、ホームルームを通じて注意喚起を行った。 ・定期的な（各学期に最低1回）個人面談を実施し、いじめの兆候の把握に努めた。 ・アンケート調査（年2回）を実施し、いじめの兆候の把握に努めた。 ・ネットパトロールの専門業者に委託し、定期的に調査を行い、ネット上の問題の早期発見に努めた。 ・部活動も含め、保護者からの相談に対しては、事実関係を早期に確認し、初期対応の遅れがないように全力を尽くした。また、必ず複数人で対応し、組織的な対応の徹底を図り、時系列に従って記録を残している。 ・スクールカウンセラー、学級担任との情報共有や連携を図った。必要に応じて、警察（生活安全課）等の専門機関へ報告・相談を行い連携した。 ・年度初めの教職員会議において、「日本大学はいじめを絶対許しません（教職員用）」リーフレットを活用し、本学としてのいじめ防止への取組の周知徹底を図った。 ・保護者懇談会において、同様のリーフレット（保護者用）を配布し、家庭への啓もうを図った。特に、気がかりな情報や問題発生の兆候があった場合、速やかな家庭と連携協力のもと、学校が早期に事実関係の調査確認を行うことを説明した。 ・「いのちの大切を学ぶ」をテーマとした講演会を実施した。また、作文により1名の生徒が表彰された。 	A

	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーとの定期的な情報交換を実施している。必要に応じて、学級担任や保護者に対しても同様に情報共有を行った。 ・インターネット上（SNS）でのいじめ防止について「サイバー犯罪防止講演（生徒及び保護者対象）」の実施時に「不適切な表現について」触れてもらい、注意を喚起した。 	
通学状況の改善 （服装・頭髪・遅刻等の指導徹底）	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式や学年集会等において講和を実施し、通学マナー・交通安全についての意識の向上に努めた。 ・交通安全の意識を高め、スクールバスの乗車率を上げた。 ・自転車事故防止指導及び保険加入の推進に力を入れた。 ・時差登校（中高）を遵守させ、登校時の生徒人数の集中を軽減し、分散化を図った。 ・服装・頭髪・遅刻等の指導については、より一層学年や学級担任との連携を図ることが課題となっており、実施方法に改善が必要である。 ・ホームルーム指導、登校指導、下校指導を継続し、遅刻者数の減少に取り組んでいる。特に、常習傾向にある生徒の継続的な指導に努めた。 ・通学路及び車内でのマナー等、思いやりの心の大切さ、ルール遵守の規範意識を涵養した。年3回の強化週間を実施した。 ・タブレット使用マナーや校内スマートフォン使用によるトラブル防止のため、ルールの存在を認識させるために、「使用のルール」の教室掲示や全生徒のタブレットへ注意喚起を配信した上で、ルール遵守の徹底に取り組んだ。 	B

課外活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
学校行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会として、次の行事を実施（又は参加）した。 4月 入学式への参加、新入生歓迎会の実施 5月 体育祭・球技大会の開催 6月 生徒会正副会長選挙の実施 9月 桜苑祭（文化祭）の開催 3月 卒業式への参加 ・新入生歓迎会では、前年度から準備を行い、できるだけ短時間で実施できるように各部活動に部活動紹介動画の作成及びパフォーマンスの協力をお願いして、中・高共に積極的に部活動に参加するように呼びかけた。 ・桜苑祭では、高等学校1・2年の全クラスが参加、中学校は各学年で参加、文化部は全ての部活動が参加、運動部は可能な限り公開練習等で参加してもらった。生徒会が中心となって装飾等の外観よりも内容を重視した企画・運営を行い、展示部門・ステージ部門共に充実させられるよう工夫した。 	A
部室棟の美化と管理	<ul style="list-style-type: none"> ・部室棟を使用している部活動の代表生徒を集めて、「部室棟使用規約」を確認し、各部活動での規則遵守を促した。 ・部室棟の共用部を常にきれいにするために、定期的に私物や持ち主不明の物の撤去を行った。 ・週ごとの清掃当番表を作成し、部室棟を使用している全ての部活動で分担して清掃に当たった。 ・定期的に部室棟を使用している部活動顧問の教員による見回りを実施し、部室 	B

	棟の美化と管理を徹底した。	
--	---------------	--

進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学への進学者数増加に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学部訪問 基礎学力到達度テスト対策講座の開催 学部説明会や日本大学進学相談会の開催 日本大学オープンキャンパスへの参加の奨励 卒業生による学部・学科説明会の開催 	A
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> チューター制自習室の開室 校内予備校の開催 ICTを利用した教育内容の充実 長期休暇期間中における講習会の開催 	A
進路観の育成	<ul style="list-style-type: none"> 学部訪問や企業訪問 オープンキャンパスや進学フェアへの参加の奨励 進路指導計画表の作成と周知 社会人による講演会等の開催 	B

保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒の健康管理	<ul style="list-style-type: none"> 定期健康診断と保健調査（生徒健康診断 100%受診） 学校医による校外活動のための健康診断の実施（学校医による健康診断の該当生徒全員の受診） 色覚検査の実施（色覚検査は、希望者に対して学校医が実施） 健康診断の日程及び内容の周知徹底 時期に応じた保健情報の提供 熱中症、インフルエンザ、ノロウイルス（感染性胃腸炎）などの流行情報を即座に伝えた（感染防止の呼びかけを強化）。 生徒のメンタルケア スクールカウンセラーと情報を共有する。必要に応じて、学級担任や保護者との連携を図った。 健康診断結果及び勧告書は、健診業者より送られてきたら迅速に配布した。 時期ごとに「保健だより」を通じて情報提供を行った。 	A
傷害事故の管理	<ul style="list-style-type: none"> 傷害事故を把握（部活動顧問・学級担任との連絡を密にする）した。 傷害事故報告書を作成し、教職員会議において毎月報告した。 	A

図書

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
図書館における広報活動の継続	<ul style="list-style-type: none"> 生徒を中心とした日直活動を充実させた。 「図書館通信」、「新着案内」、「Library」を発行した。 「読書強調旬間：図書委員の推薦図書」を生徒図書委員が作成した。 「授業関連」、「特集」、「この棚にはこんな本があります」などのコーナーを展開し、生徒による手作りの資料等も作成した。 	A

	<ul style="list-style-type: none"> ・4月に図書館ガイダンスを実施した。 ・「図書館利用ガイド」と「読書ノート」「日大高校・中学の100冊」を一冊にまとめて全校生徒・全教職員に配布した。 	
生徒一人ひとりが活用しやすい環境とシステム作り	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館内の備品整備に心掛けた。 ・図書館活動以外の環境作りにも取り組んだ。 	B

広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
広報活動の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> ・広報部内における組織や業務内容の再検証・再確認を行い、年度を通じて組織的に対応できる体制を整備した。 ・効果的な広報活動を行うために、業務におけるP D C Aサイクルを構築徹底し、それぞれの業務に対する分析を強化した。 	B
活発な受験生募集	ターゲットを明確にし、効率よく広報活動を行っていく。特に、本校を広く認知してもらい、「ここで学びたい」と思ってもらえる受験生を増やすことに注力した。	A

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
校務分掌等内における連携強化	これまで本校においては、執行部会議、校務運営委員会、教職員会議といった会議体は定期的で開催していたが、それ以外の校務分掌等の会議については、ほとんど開催されていなかったことから、校務分掌会議及び教科会議等を年間予定に加え、当該会議の開催を促し開催実績を得た。これにより、関係する教職員が対面しての話し合いを行うという文化を構築する第一歩となったものと思料する。	B
施設の保安全管理	校内の“安全面・衛生面”の改善・向上については、更新周期やメンテナンスコストも考慮した上で、財務に及ぼす影響を評価し、計画的かつ綿密な施設設備計画に沿って実施した。費用や手間がかかり、陳腐化の激しい“デジタル物件”（教室の電気錠など）については、今一度その必要性・費用対効果を精査の上、不要不急であれば“アナログ物件”（教室の鍵をシリンダー錠にするなど）の仕様変更等、既存設備のスクラップを検討した。	B
大規模災害への備え	大規模災害時に必要となる防災備蓄品及び備蓄量を国及び地方自治体が定めるガイドライン等を参考に防災用品の充実に努めた。具体的には、全教職員分の防災用品セット（非常食含む）の内容を精査し、日帰り対応のセットから宿泊対応のセットへ買替えをした。	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

令和2年度の取組目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
「新学習指導要領」や「高大接続改革」施行に向けての取組	新カリキュラムは、「新学習指導要領」に対応したものであるとともに、「中高一貫教育」を視野に入れたものを関係分掌と連携して素案を検討し、カリキュラム検討委員会において協議して、年度内における素案の上程を目指す。	1 学期 教務部における素案検討 2 学期 カリキュラム委員会における原案検討・協議

		3 学期 校務運営委員会及び教職員会議における途中経過報告等
教務内規の改定に向けての取組	新カリキュラムの策定に向けた検討に伴い、教務内規も見直し改定を目指す。	1～2 学期 素案検討 3 学期 原案検討，執行部会議等へ上程

学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
いじめ防止のための取組	年度初めに教職員・保護者に対して，学校の取組と姿勢を周知する。	4 月に，いじめリーフレットを活用しガイダンスを実施する。
	適宜，ホームルームを通じて注意喚起を行う。	
	定期的な（各学期最低 1 回）個人面談を継続する。	定期考査前に学級担任による個人面談を実施する。
	アンケート調査（年 2 回）を実施する。	4 月・12 月にアンケートを実施
	部活動も含め保護者からの相談に対しては，事実関係を早期に確認し，初期対応に全力を尽くす。必ず複数で対応（組織的に対応）の徹底を図り，時系列に従って記録を残していく。	研修等実施し，初期対応についての個々のスキルアップを行う。
	スクールカウンセラーや学級担任との情報共有や連携を図る。	
	必要に応じて警察（生活安全課）等の専門機関へ報告・相談を行い連携していく。	学警連における情報共有を行う。
	年度初めの教職員会議において，「日本大学はいじめを絶対許しません（教職員用）」リーフレットを活用し，本学としてのいじめ防止への取組の周知徹底を行っていく。	
	保護者懇談会において，同様の保護者用リーフレットを活用し，家庭での気がかりな情報や問題発生の兆候があった場合，家庭との連携協力のもと，学校が早期に事実関係の調査確認を行うことを説明する。	
	スクールカウンセラーとの定期的な情報交換を実施する。	
インターネット上（SNS）での不適切な書き込みによるいじめ防止についてサイバー犯罪防止講演実施の際に「適切な表現について」に触れてもらう。	4 月にサイバー犯罪防止講演を実施する。（保護者・生徒）	
「いのちの大切を学ぶ」をテーマとした講演会を実施する。	6 月～7 月	
通学状況の改善（服装・頭髪・遅刻等の指導徹底）	始業式や集会等における講和を通し，通学マナー・交通安全についての意識の向上に努める。	4 月に，始業式・新入生ガイダンスにおいて実施する。

	交通安全についての意識の向上に努めていく。	4月に、自転車許可申請説明会にて指導する。
	交通安全の意識を高め、スクールバス乗車率を上げる。また、自転車事故防止指導及び保険加入の推進に力を入れる。	年3回の強化週間において指導する。
	時差登校（中高）を遵守させ、登校時の生徒人数の集中を軽減し、分散化を図る。	毎朝の立門指導において指導
	8時25分着席完了を遵守させ、“遅刻ゼロ”に努める。	4月に、「学校生活要綱」を使用し、新入生ガイダンスにおいて説明して実施する。
	服装・頭髪・遅刻等の指導については、より一層学年や学級担任との指導方法について連携を図る。	
	ホームルーム指導、登校指導、登下校指導を継続し、遅刻生徒の減少に努める。また、常習生徒の改善に向けた継続的な指導を行う。	
	通学路及び車内でのマナー等、思いやりの心の大切さ、ルール遵守の規範意識を育てていく。年3回の強化週間を実施する。	
	タブレット使用マナーや校内スマートフォン使用によるトラブル防止のため、ルールの存在を認識させるために、「使用のルール」の教室掲示や全生徒のタブレットへ注意喚起を配信した上で、ルール遵守の徹底に取り組む。	

課外活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
学校行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が中心となって主体的に活動することを重視する。 新入生歓迎会はできるだけ短時間で内容の充実した部活動紹介が行えるように取り組み、中・高共に積極的に部活動に参加するように呼びかける。 桜苑祭では高等学校1・2年の全クラス参加、中学校は学年参加、文化部は全ての部が参加、運動部もできる限り公開練習等で参加してもらう。生徒会が中心となって企画・運営をし、展示部門・ステージ部門ともに充実させられるようにする。 各行事や式典等において、厳粛な雰囲気の中にも「情熱と真心」のこもった運営を心掛け、生徒のアイデアも可能なものは尊重していく。 ボランティア活動においても生徒の意見を取り入れながら進めていく。 	4月 入学式、新入生歓迎会 5月 体育祭・球技大会 6月 生徒会正副会長選挙 9月 桜苑祭（文化祭） 2月 日本赤十字献血 3月 卒業式
部室棟の美化と管理	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに部室棟を使用している部活動の代表生徒を集め「部室棟使用規約」の順守徹底を図る。 	通年

	<ul style="list-style-type: none"> ・週ごとの清掃当番表を作成し、部室棟を使用している全ての部活動で分担して清掃に当たる。 ・定期的に部室棟を使用している部活動顧問の教員による見回り指導を実施し、部室棟の美化と管理を徹底する。 	
--	--	--

進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
日本大学への進学者数増加に向けた取組	長期休暇期間中における基礎学力到達度テスト対策講座の開講	夏期休暇期間及び春期休暇期間に開講
	学部説明会や日本大学進学相談会の開催	学部説明会は適宜開催 日本大学進学相談会は7月開催
	日本大学オープンキャンパスへの参加の奨励	オープンキャンパスや進学フェアは適宜参加
	卒業生による日本大学の学部・学科説明会の開催	6月開催
学力向上	校内予備校の充実と利用の促進	通年
	I C Tの有効利用を含めた日々の授業の充実	通年
	W e b教材の有効な利用	通年
	長期休暇中の講習会の実施	夏期休暇期間、冬期休暇期間、春期休暇期間
進路観の育成	オープンキャンパスや進学フェアへの参加に関する奨励	適宜
	ホームルーム活動における職業観の涵養	適宜
	学部訪問や企業訪問	適宜

保健衛生

取組目標	取組方策	取組スケジュール
生徒の健康管理	定期健康診断と保健調査	生徒健康診断と保健調査を実施する(100%受診と調査用紙の回収と管理。また、欠席者及び海外留学からの帰国生徒のフォロー健診実施)。 診断結果及び勧告書を配布する。
	学校医による校外活動・スキー教室等のための健康診断の実施	学校医による健康診断は該当生徒(健診希望者)に対して実施する。
	学校医による色覚検査の実施	色覚検査は、希望者に対して実施する。
	時期に応じた保健情報の提供	「保健だより」やポスター等で、感染症の流行時期に合わせて、

		感染防止の呼びかけを強化する。
傷害事故の管理	傷害事故の把握（学級担任・担当教諭・部活動顧問との連携）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 傷害事故報告一覧を作成し、教職員会議で毎月報告する。 ・ 災害共済給付の手続きを行う。

図書

取組目標	取組方策	取組スケジュール
図書における広報活動の継続	「Library」, 「新着案内」, 「図書館利用ガイド（読書ノート）」, 「日大高校・中学の100冊」などの刊行物や図書委員の手作りのポスター掲示などの活動を通して広報活動に努める。さらに、卒業式に合わせて、図書館のレイアウト等を計画する。	通年
生徒一人ひとりが活用しやすい環境とシステム作り	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクティブラーニングへの対応するための図書館を活動（空間）の一つとして提供できるようにする。 ・ アクティブラーニングへの対応にするための情報提供に向けた書籍や入試関連書籍の充実を図り、学習空間の充実を行う。 ・ パソコンを使用する際の検索システムの充実し、読売新聞など電子版検索の充実を図る。 ・ 入試関連の書籍及び環境づくりに取り組む。 ・ 海外研修の情報を収集及び提供に努める。 	通年

広報

取組目標	取組方策	取組スケジュール
広報活動の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効率よく広報活動を行っていくために、データに基づき効果を可視化していけるような環境づくりを行う。 ・ 広く広報活動を行う一方、受験生、保護者、塾関係者、メディア関係者など一人ひとりを大切にすることを常に持ち、思いやり、温かみのある対応をしていく。 	通年
活発な受験生募集	他校とは違う本校独自性を打ち出し、特色のある教育活動を周知して、受験生から選ばれる学校としての立ち位置を確立していくことにより、志願者数の増加や入学者の質向上を図る。	通年

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
教育の質を保証する体制の確立と更なる充実を目的としたSDの推進	大学設置基準等の一部改正によりSDが義務化されていることに鑑み、“教職協働”による学校運営体制をより一層強化されるのに伴い教育活動等の適切かつ効果	高大接続改革等の文教政策を踏まえ、進取の精神のもと、近時のテーマによるSD研修会等を

	<p>的な運営を図る。</p> <p>また、教職員に必要な知識及び技能を習得させ、その能力及び資質を向上させるために必要な取り組みを行うことで、教職員の意識改革を実行し、学校が一丸となって改善・改革を組織的かつ継続的に推進することを目指す。</p>	<p>定期的を開催する。その結果として、教職員が自分の立場を認識しながら、“教職協働”で円滑に学校運営に参画できる素養の養成を促すことができることを目指す。</p> <p>そのための礎として、令和元年度から実施している校務分掌等内における連携強化をより一層推進し、校内の円滑なコミュニケーションによる効果的な学校運営体制の構築を目指す。</p>
施設の保全管理	<p>校内の“安全面・衛生面”の改善・向上について施設の現状と工事コストを鑑みて、計画的な修繕を行う。</p> <p>来年度については、令和元年に空調機の故障が多発したため、空調機のメンテナンスや修繕工事を中心に行う。</p>	<p>空調機のメンテナンス等については、6月を目途に随時行う。</p>

中長期的目標の取組結果

管理部門

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
施設の保全管理	<p>竣工後15年を迎えたキャンパス内の建物・設備の老朽化が進み、予定外の修理・修繕が頻発する傾向にあった。本校における効果的な広報面の一つである“安全面・衛生面に配慮された快適な施設で過ごす学校生活”を体現化して行くためにも、キャンパス内の施設・設備の修繕計画を、中期（竣工後15年）・長期（竣工後30年）で見据えながら策定し、実施検討項目の優先度と実施周期を勘案しながら着手する必要がある。</p> <p>なお、今年度の進捗状況としては、校内監視カメラの不具合が生じている部分に関して早急な対応をとり、付け替えを行っている。また、長期計画として、記念館の校内監視カメラの更新が決定し、次年度から順次工事を行っていく。</p>	B
大規模災害への備え	<p>大規模災害時に必要となる防災備蓄品及び備蓄量を国のガイドラインに従い、生徒及び教職員全員（約2,500名）が3日間必要とする飲料水を維持し、教職員の非常食の内容を見直しし、内容を充実させた。</p>	B

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

中長期的目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
「魅力あるカリキュラム」の策定に向けたカリキュラムマネジメントの推進	<p>・「魅力あるカリキュラム」の策定に向け、次の諸点で方向性の核として捉える。</p> <p>①「充実した授業カリキュラム」の策定</p> <p>②「目標達成に向かうプロセスを支援できるカリキュラム以外の体制」の強化</p>	<p>令和元年度中に前提となる基本方針及び取組スケジュールを教職員に示し、令和2年度中にカリキュラム検討委員会等において素案を検討する。</p>

	<p>③「中高一貫カリキュラム策定」に向けた検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラム策定に係る具体的なコンセプト（検討課題）として、次の諸点を掲げる。 <p>①「新生日大高校」を意識した「教学マネジメントシステム改革」の推進</p> <p>②生徒の理想とする未来の自己実現に向けた「学習サポートシステム」の構築</p> <p>③カリキュラム及びそれに付随する体制の構築に向けたマイルストーンの策定</p> <p>④カリキュラム策定に係る基本方針の策定</p>	<p>素案検討の過程においては、適宜、ワークショップを開催するなどして、教職員からの意見を聴きながら進める体制をとる。併せて、適時、校務運営委員会や教職員会議において、検討に係る途中経過を報告する。</p> <p>上記の過程を経て、令和3年7月を目途に内容を確定し、新たな指針に基づく生徒募集を開始する。</p> <p>なお、「魅力あるカリキュラム」の策定に向けたカリキュラムマネジメントの推進を取組目標として掲げていることから、新カリキュラム策定後においても、効果的なカリキュラムマネジメントの実現を目指した研修会を開催するなどして、組織的かつ体系的、継続的に取り組んでいく。</p>
--	--	---

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
<p>生徒が安全・安心な学校生活を送るための取組み</p>	<p>本館・第1グラウンド・第2グラウンドが完成して15年が経過しようとしている。そうした中で、特に、グラウンド及び周回コースの人工芝の痛みが発生している。保健体育科の授業及び部活動中における怪我の発生が懸念されるため、人工芝張替え工事を順次実施する。</p> <p>また、新校舎完成時に設置した防犯カメラも老朽化が見られ、機能的にも緊急時の状況の把握と検証を困難としていることが現状である。</p> <p>上記2つの工事について、予算的な問題並びに授業及び部活動における状況も考慮した上で、4年計画により段階的に実施し、生徒の安全・安心な学校環境の構築に努める。</p>	<p>令和2年度から令和5年度までを目途に取組を進めていく。</p>
<p>施設の保全管理</p>	<p>本館を長期利用するための計画を継続して進めて行く。具体的には施設関係として校舎自体のメンテナンス（漏水や配管関係）、空調機、教室の照明を中心に長期的に修繕を行う。また、建物付属や機器備品として、防犯カメラや生徒の教室で使用するロッカーを更新していく。</p>	<p>本館の修繕として、各工事を2～3年間を目途に行っていく。新校舎設立については、令和8年から図面の作成を始め、令和10年に工事の着工、令和12年竣工を目標とする。</p>

	創設 100 周年記念事業における「さくらホール」,「100-50 記念館」の建替えに向けて,年間 3 億円の貯金を行い,新校舎設立に向けて推進していく。	
--	---	--